

観光集客都市実現のための仁川市観光振興政策

- 第4次仁川圏観光開発計画についての考察 -

沈 辰範 (仁川発展研究院 研究委員)

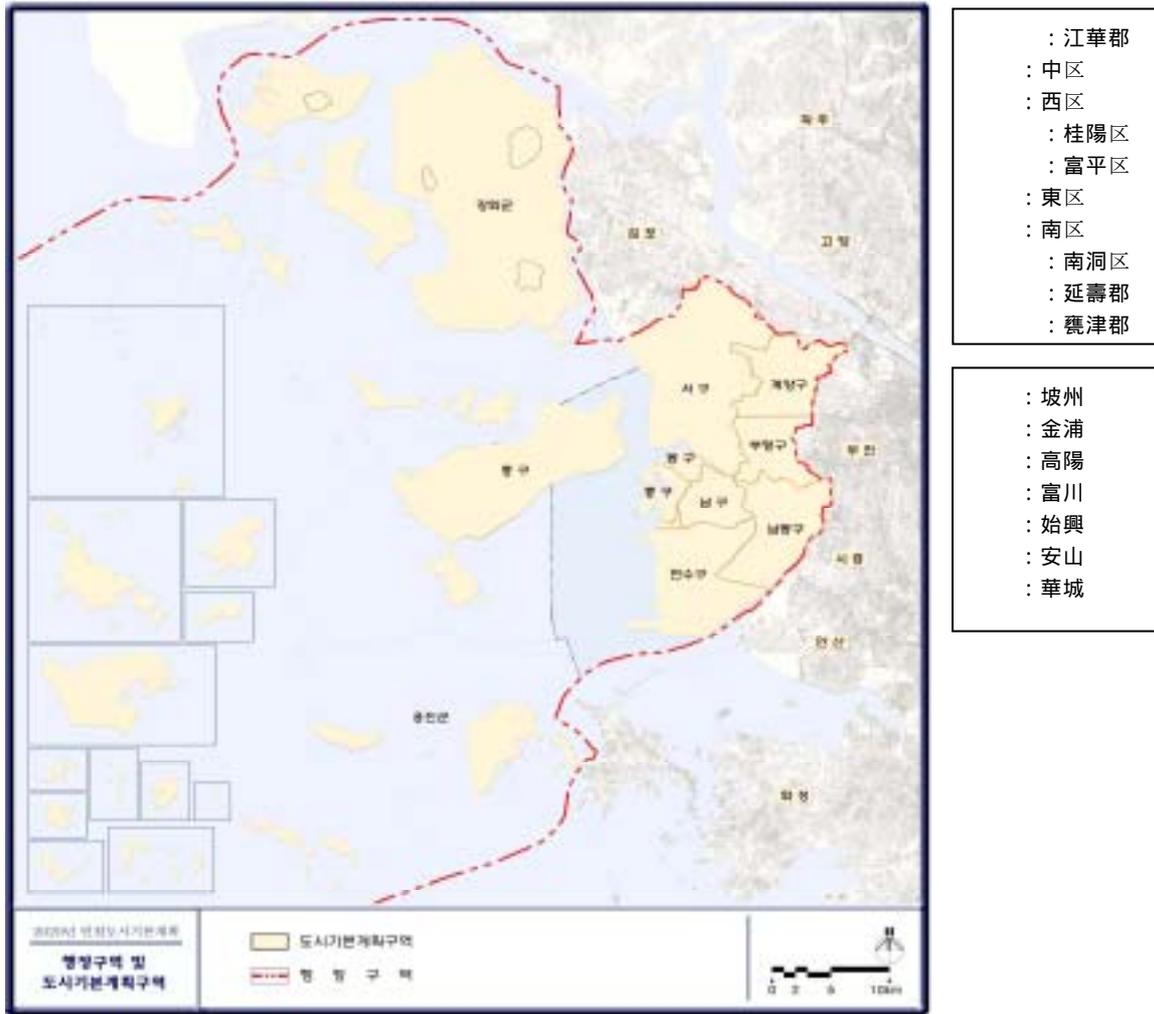
. 序論

韓国政府は、観光振興法に基づき仁川市などの広域地方自治体を観光圏地域として指定し、各地方自治体が地域別に観光開発計画を定め、地域観光振興の義務を課している。広域地方自治体の観光政策の方向性としては、韓国の観光行政を担当する文化観光部による観光開発基本計画に従うことになっているが、これは地域ごとに差別化させることにより、韓国の観光分野での競争力強化を目指すことをその目的とする。

このように、全国規模での観光開発基本計画は、計画期間を10年と定め、国の観光政策の基本的な方向性を提示しているが、第1次観光開発基本計画に続き、現在は第2次観光開発基本計画(2002-2011)が進行中である。

韓国の広域自治体は、国による10年単位の観光開発基本計画を基に、5年単位の地域別観光開発計画を策定する義務がある。つまり、一回の国家基本計画で2回の地域観光計画が必要となる。したがって仁川市は、第3次仁川圏観光開発計画(2002-2006)に続き、現在は第4次仁川圏観光開発計画(2007-2011)期間の初年度にあたる。2007年2月中に計画を策定、公告し、計画が本格的に実行される予定だ。

第4次仁川圏観光開発計画では、2007年からの5年間に仁川市観光政策の基本的な方向性と戦略事業を提示しているが、これは集客都市または観光都市の実現を目的としている。政策対象となる範囲は、仁川市の8つの区と江華郡、甕津郡が含まれており、これは仁川広域市の行政区域、都市基本計画区域と一致する(図1参照)。以下第4次仁川圏観光開発計画の主な内容について説明し、観光集客都市実現のための仁川市観光政策の方向性について検討する。



- : 江華郡
- : 中区
- : 西区
- : 桂陽区
- : 富平区
- : 東区
- : 南区
- : 南洞区
- : 延壽郡
- : 漣津郡

- : 坡州
- : 金浦
- : 高陽
- : 富川
- : 始興
- : 安山
- : 華城

2020
2020年仁川都市基本計画

行政区域及び都市基本計画区域

都市基本計画区域

行政区域

図1 仁川圏観光開発計画の範囲

仁川市の観光政策環境と課題

1. 仁川市の観光政策環境

観光政策と国内外の政策環境とは、互いに影響を及ぼしあう。その場合、政策環境は政策を転換させる要因となり、同時に政策の結果が現れる対象ともなる。(アン・ジョンウン、2000；イ・ヨンテク、2003)。従って地域観光政策は、その地域の観光政策の強みと弱み(内部環境から)、また機会と(外部環境からの)脅威を考慮して政策課題を設定する必要がある。このようにして仁川市の観光政策環境を総合的に概観し、これを SWOT 分析した結果が次の表 1 である。

表1 仁川市観光政策環境の SWOT 分析

強み(Strengths)	弱み(Weakness)
<ul style="list-style-type: none"> ・国際空港と国際港を保有 <ul style="list-style-type: none"> - 訪韓外国人の 80%以上が仁川から入国 ・仁川経済自由特区指定 <ul style="list-style-type: none"> - 観光関連複合投資やテーマパークなどの事業提案拡大 - 医療などの特化観光コンテンツの創出 ・開港期近代史文化観光スポット、江華韓民族歴史文化観光スポットを保有 <ul style="list-style-type: none"> - 都市再生、新活力サポートなどと連携した観光機能反映 ・島、海、砂浜、干潟など海洋生態系観光スポットを保有 ・定住人口の増加(2020 年には 310 万人予想) <ul style="list-style-type: none"> - 経済自由特区などへの人口流入 ・仁川観光公社設立と観光行政組織間の協力システム構築 <ul style="list-style-type: none"> - 観光行政ワークショップ、フォーラムなどの開催経験 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光開発予算が不十分 <ul style="list-style-type: none"> - 市、区、郡財政の 1%水準 ・旅行社や観光客を迎え入れる体制の不備など、観光需要に応える体制が不十分 <ul style="list-style-type: none"> - 旅行社は韓国全体の 2% (2005 年) ・工場など産業施設の密集により観光都市としての景観が悪い ・観光商品性の不足 <ul style="list-style-type: none"> - 祝祭以外の特別な文化観光コンテンツがない ・観光地への移動やアクセス手段の不足 <ul style="list-style-type: none"> - 遊歩道の未整備、シティツアーや遊覧船以外の観光交通手段がない ・観光地としてのイメージや知名度不足 ・島嶼地域へのアクセスに限界 ・仁川市民の観光レジャー活動が萎縮 <ul style="list-style-type: none"> - 低い観光経験率と仁川訪問比率の低下
機会(Opportunities)	脅威(Threats)
<ul style="list-style-type: none"> ・韓国内外の潜在観光市場との広域アクセス改善 <ul style="list-style-type: none"> - 仁川空港、仁川港拡張、空港高速鉄道、水仁線、第三京仁高速道路、第 2 外郭循環道路など建設予定 ・政府による積極的な外国人観光客誘致政策 <ul style="list-style-type: none"> - 2008 年訪韓外国人観光客 1000 万人誘致目標 - 韓国観光の玄関口としての仁川の潜在マーケット拡大 ・政府の上位計画における仁川観光の比重増大 <ul style="list-style-type: none"> - 観光中心、観光拠点機能の反映 ・週休二日制の施行 <ul style="list-style-type: none"> - 首都圏居住者の週末観光レジャー市場の成長 - 仁川地域の就業者による週末観光レジャー拡大、取り込み ・歴史文化、生態自然観光など仁川地域の観光資源を体験する観光商品市場の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光開発事業に対する大きな期待と事業推進 ・韓国内外の観光客誘致競争の熾烈化と統合調整機関がないこと <ul style="list-style-type: none"> - 京畿韓流ウッド、ソウル・ディズニーランド誘致など、仁川地域と類似の事業が多数あり ・アジア地域の主要都市間競争の熾烈化 <ul style="list-style-type: none"> - 香港、シンガポール、バンコク、日本の主要都市などとの外国人観光客誘致競争の熾烈化 ・開発事業に対する情緒的制約が残存 <ul style="list-style-type: none"> - 観光による否定的影響の認識拡大 ・観光開発事業に対する民間投資の不確実性 <ul style="list-style-type: none"> - 事業の中止や遅延

2. 仁川市観光政策の課題

第4次仁川圏観光開発計画では、SWOT分析の結果を元に観光集客都市実現のための仁川市の観光政策における課題を、以下のように5つの分野にまとめている。これは、政策のビジョン・目標と戦略計画樹立の基礎となる。

第1の課題は、国際観光および観光中心都市機能の強化である。

これは、国際空港や国際港の保有、経済自由特区としての指定などの強みと、国内外とのアクセスの改善、訪韓する外国人観光客の増加、国家計画における仁川地域の重要性の向上など、機会要因を積極的に活用するという観点から設定された。

第2の課題は、歴史や文化および海洋観光都市としての機能強化である。

これは、開港期の近代史文化史跡、江華韓民族歴史文化資源、首都圏最大の海洋港湾都市としての砂浜や干潟、海洋資源などの強みを最大限利用するという観点から設定された。

第3の課題は、仁川市民中心の観光政策の開発である。

経済自由特区の育成、都市再生事業の推進などにより定住人口の増加が予想され、市民が観光やレジャー活動を楽しみやすい都市を目指すという側面から設定された。

第4の課題は、観光情報及び観光交通システムの整備である。

仁川観光都市を中心とする積極的なマーケティングと観光交通システムの整備を通じ、行ってみたい観光都市としてのイメージを構築しつつけるため、強みを最大限に生かしながら弱みを改善していくという側面から設定された。

第5の課題は、観光コンテンツと観光客を迎え入れるシステムの改善である。

訪韓する外国人観光客の80%以上が通過する韓国の玄関口として、国内外の様々な観光客を迎え入れるシステムや計画の強化が必要な状況にあるからだ。

・仁川市観光政策の目標と戦略システム

修正された国土総合計画では観光中心都市機能、観光振興5ヵ年計画における10大戦略観光拠点、仁川経済自由特区における大規模観光レジャー施設誘致事業などに言及している。そのため第4次仁川圏観光開発計画では「世界の人々が交流する韓国の観光中心都市」を仁川市の観光政策におけるビジョンとして設定した。これは第2次計画の位置付けである「北東アジア国際観光都市」や、第3次計画での位置付けである「国際海洋観光都市」に比べると、より積極的なビジョンだと言えよう。計画とビジョンの実践目標としては国際観光都市、歴史文化観光都市、海洋生態観光都市、市民観光中心都市という四大実践目標が設定された。

一般的に地域観光政策の構造は、「政策目標」とこれを達成するための「手段」で構成される。「手段」は「政策目標」達成のための戦略となる。第4次仁川圏観光開発計画では、四大実践目標達成のための8大戦略システムが設定されたが、これは経済自由特区中心の国際的観光基盤の拡大、月尾観光特区などの都心観光レジャー空間の拡大、江華地域の歴史・文化・生態系観光の魅力開発、甕津島嶼海洋観光と農漁村観光の振興、市民観光の振興、観光需要創出のためのマーケティング強化、アクセスと交通システムの改善、観光の商品性と観光客を迎え入れるシステムの改善などの戦略を意味する（図2参照）。

8大戦略システム	4大目標
戦略1. 経済自由特区中心の国際的観光基盤の拡充 ・龍游・舞衣、テーマパーク、韓流観光、医療観光、コンベンション 戦略2. 月尾観光特区などの都心観光レジャー空間の拡充 ・月尾観光特区、海洋生態系公園、海洋科学館など 戦略3. 江華地域文化生態観光の魅力開発 ・富近里拠点事業、摩尼山観光地など 戦略4. 甕津島嶼・海洋観光及び農漁村観光振興 ・島ごとの観光サービス施設拡充、住民主導の農漁村事業など 戦略5. 市民観光の振興 ・家族旅行体験ツアー、市民観光の障害要因除去など 戦略6. 観光需要創出のためのマーケティング強化 ・パンフレット、観光案内所、体験ツアーなどの活用 戦略7. 交通アクセスと交通手段連携システムの改善 ・シティツアー、観光交通手段、遊歩道改善など 戦略8. 観光商品性と受け入れ体制の改善 ・特化した観光商品の開発、案内員(解説員)の増員、強化など	
	国際観光都市
	歴史文化観光都市
	海洋生態観光都市
	市民観光中心都市

図2 第4次仁川圏観光開発計画の戦略システムと目標の連携図

・観光集客都市実現のための戦略別重点事業計画

第4次仁川圏観光開発計画では、8大戦略別に具体化計画が定められた。今後第5次仁川圏観光開発計画との関係性を考慮しつつ、「政策の基本的な方向性」と「重点事業」から構成されている。その「重点事業」は、第4次計画の期間（2007-2011年）に重点的に実行されなければならない戦略事業を意味する。8大戦略別の内容は次の通りである。

1. 経済自由特区中心の国際的観光基盤の拡充

戦略1では、仁川経済自由特区を中心に国際的流動人口や観光客の増加が予想される地域を、国際観光地域として特化・開発し、外国人のために交通、情報、サービス施設の拡充とサポートシステムの確立を基本的な方向性として設定している。そのための重点事業は、次の通りである。

- ① 龍游地域と舞衣地域の観光団地造成事業：この事業は、仁川国際空港周辺の総面積213万坪規模の観光ホテル、文化施設、ウォーターフロント、カジノリゾート等の複合観光施設を造成し、国際観光交流拠点とする大規模事業で、仁川広域市都市開発公社と民間資本を誘致して行われる。
- ② 甕津郡北島面矢島のドラマセットを活用した韓流観光スポット活用事業：北島面矢島は、韓流スターのRain（ピ）や宋慧喬（ソン・ヘギョ）が出演したドラマ『フルハウス』の撮影セットや、権相佑（クオン・サンウ）、金喜善（キム・ヒソン）が出演したドラマ『悲しき恋歌』の撮影セットなどがあり、ドラマ観光スポットとして活用できる点が強みだ。場所的にも仁川国際空港に隣接している。
- ③ 仁川経済自由特区松島地区に2008年までにコンベンションセンターを建設し、これを

基盤としてコンベンション観光を活性化する。

- ④ 仁川経済自由特区内に外国人専用病院の誘致、メディカルハブの造成などと連携した医療観光育成計画
- ⑤ 2009年に開通する仁川大橋の観光スポット化によるイベント開発、仁川大橋の主な眺望施設との連携強化など、仁川大橋観光スポット化計画の推進。

2. 月尾観光特区など都心観光レジャー地域の拡大

近代史文化スポットとウォーターフロント地区のある月尾観光特区を、都心観光レジャーの中心として育成し、都市にいながらにして海に接する機会や文化空間の拡大を基本的な方向性として次のような重点事業に言及している。

- ① 中区に指定されている月尾観光特区振興事業のシステム化：月尾公園の造成・整備、海洋科学館の建設、仁川複合駅の建設、美術文化空間の造成、各国の有名公園の創造的復元事業、路面電車の導入、新浦一月尾島間カルチャーストリートのシンボル遊歩道造成事業、近代史文化探訪ストリート事業などの8大事業をまずは推進
- ② 月尾島地域に海洋展示館、灯台と船舶博物館、潮水体験館などを中心とする仁川海洋科学館建設
- ③ 韓国で最初の移民が出発した地域としての特性を生かした、韓国移民史博物館事業を仁川市テーマ博物館事業の一環として推進

3. 江華地域の歴史・文化・生態自然観光の魅力の開発

江華地域に歴史・文化・自然生態系などの観光スポットを中心に、歴史文化観光の拠点を造成する。歴史文化資産の整備、民間資本誘致による観光レジャー空間の造成を基本的な方向性として設定し、次のような重点事業に言及している。

- ① 史跡や遺跡の残る地域一帯を、江華郡歴史文化観光の拠点として育成：史跡の公園化事業や江華歴史博物館建設事業などを推進し、史跡文化祝祭を定期的で開催する。
- ② 江華の砂浜や干潟の自然生態系観光育成に向けた、砂浜・干潟散策路や観察拠点の設置など、江華砂浜・干潟センターを拡充する。
- ③ 観光地として指定され開発されている摩尼山観光地を、新しい観光スポットとして再開発する。
- ④ 江華郡の観光事業振興の条件を体系的に診断し、これまでの事業の効率性を向上させ、新事業のシステム開発に向けた江華郡観光振興基本計画を策定する。

4. 甕津島嶼海洋観光と農漁村観光の振興

甕津島嶼地域の観光サービス施設拡張事業を引き続き推進し、住民主導の農漁村観光事業を通じて地域の新しい収入源とし、自然休息型観光レジャー空間の拡張を基本的な方向性として設定する。次のような重点事業に言及している。

- ① 観光地として開発されている西浦里観光地再開発事業を推進
- ② 観光農業タウンの造成、農村伝統テーマパークの推進、漁村体験観光村などの農漁村観光事業推進

- ③ 甕津郡霊興面の体験施設をネットワーク化し、体験ツアー事業のテスト運営を計画
- ④ 今後、甕津郡の体系的な観光事業振興のために、甕津郡観光振興基本計画を 2007 年内に策定する。

5. 市民観光の振興

市民観光とは仁川市民が仁川地域内で行う観光レジャー活動を意味する。とりわけ週休二日制が 2011 年までに全面的に施行されることにより、仁川市民の観光レジャー活動へのサポートと市民観光の障害物を取り除くことを基本的な方向性として設定し、次のような重点事業に言及している。

- ① 仁川の島嶼地域の体験をテーマに、仁川島嶼探訪体験家族ツアー事業を推進
- ② 仁川市民を対象とした仁川再発見事業の展開：観光広報活動の一環としての仁川市推薦の仁川観光 20 選を紹介するパンフレットの発行、仁川再発見キャンペーン、仁川文化財を知るための一連の事業。
- ③ 企業が多い仁川市の特性を生かした、仁川地域の企業巡回ツアーと観光広報展の開催：これは週休二日制を実施する企業を直接訪問するという積極的な広報戦略を意味する。
- ④ 仁川市民の中で、観光を楽しむ機会のない市民を対象とした無料のシティツアーや公共観光施設への入場料無料化
- ⑤ 市民が観光を楽しむ上で障害となる要因を取り除くための、家族観光客バリアフリー事業や韓国在住外国人対象の仁川観光ガイドブック配布及び仁川体験観光ツアーの実施。

6. 観光需要創出のためのマーケティング強化

常に変化を続ける仁川の観光レジャー環境を国内外に紹介し、観光客誘致のために従来の観光広報政策と共に、「仁川訪問の年」事業などの積極的なマーケティング活動を基本的な方向性として、次のような重点事業に言及している。

- ① 観光客向けパンフレットの製作とインターネットでの広報：従来の広報活動は引き続き行いながら、体験観光を前面に出す体験仁川ポータルサイトを開設する。
- ② 観光案内所運営システムの一元化と観光案内所の増設：とりわけソウルからの観光客誘致のため、ソウルの中心地に仁川観光広報館が設置される。
- ③ 旅行会社を招いての観光説明会、ソウルでの仁川体験観光展開催、国内外の観光展示博覧会への参加、全国の修学旅行生誘致のための説明会や観光展を活用した広報活動の強化
- ④ 旅行会社を対象とする仁川観光資料集の発行、山岳同好会など関連する同好会へのマーケティング活動強化。
- ⑤ 仁川港に停泊中の外航船員や仁川空港での乗り換え客を対象とする観光商品の開発。
- ⑥ 計画の中間時点となる 2009 年度に「仁川訪問の年」と「仁川世界都市博覧会」事業を推進する。

7. 交通アクセスと他地域との連携システムの改善

他の観光地との連携、徒歩や公共交通中心の移動手段の確保を基本的な方向性とする次のような重点事業に言及している。

- ① 仁川市シティツアー定期路線の継続運行とテーマ別ツアーコースの整備強化。
- ② 都心観光の核となる月尾観光特区で月尾シャトルバスを運行し、観光列車も導入して観光交通の手段として活用する。
- ③ 中区の開港場周辺に近代史歴史文化散策路と、新浦港一月尾島のシンボル遊歩道を造成し、都心での徒歩観光を観光の目玉とする。
- ④ 月尾島周辺の江華海岸道路など主な観光地周辺の自転車道整備と、週末に混雑が予想される主な観光地の交通情報提供システムの整備。

8. 観光商品性と観光客受け入れシステムの改善

仁川地域の歴史や文化、自然生態系を利用した観光コンテンツの開発と観光サービスの品質向上を基本的な方向性として、次のような重点事業に言及している。

- ① 旧都心の近代開港場の遊歩道を観光地として拡張し、2006年から施行されている月尾の月見見物文化観光スポットを引き続き運営するなど、歴史・文化や自然生態系をテーマとして特化した観光商品を拡充する。
- ② 月尾観光特区と江華などの主な観光地に、文化観光案内員を増員して配置し、住民参加型の仁川観光案内員（解説者）事業を施行する。
- ③ 観光地での週末参加体験計画を活性化し、市が運営する観光地を週末にもオープンさせ、週末観光を活性化する。
- ④ 海洋祝祭、「中国の日」祝祭、「ハヌル(天、空)祝祭」を仁川の代表的なイベントとして成長させ、仁川を象徴する観光記念品を開発する。
- ⑤ 観光ホテル従業員への教育の徹底、飲食文化改善に向けた自主的な実践の活性化、国際レベルの衛生的な飲食店の育成サポート、清潔なトイレを開放する業者へのサポートなどにより観光業界のサービスの質の向上を目指す。

・結論

観光集客都市を目指す仁川市は「世界の人々が交流する韓国の観光中心都市」をビジョンとし、今後、観光開発や観光マーケティング政策を強化する。このような政策的ビジョンと目標は、第4次仁川圏観光開発計画(2007年～2011年)期間中に具体化されるが、これには目標実現のための8大戦略がたてられており、今後5年で重点的に推進する戦略事業が明記されている。

計画によると、戦略事業の実践のために総額1兆5041億8000万ウォン(※日本円で約1931億6700万円)の事業費(今後の事業拡大や予算が反映されない事業を除く)が必要と予想されているが、そのためには公共の財源と共に民間資本の誘致が必要である。仁川市は、資金を調達するために戦略別の重点事業を仁川市の中期地方財政計画に反映させることにより、公共の財源の安定的な確保を期する方針であり、更に仁川経済自由特区庁の投資誘致本部を中心に、民間資本の誘致活動を強化する予定だ。計画が実現すれば、目標年度の

2011年に仁川地域を訪問する観光客は約1160万人になると見込まれ、その直接的な経済効果は約7478億4600万ウォン（※日本円で約960億4650万円）に達すると予想されている。

要約すると、国際都市を目指す仁川市にとっては、今回の都市政策においてこれまで以上に観光政策の比重が高まっている。また観光振興法に基づく第4次仁川圏観光開発計画により政策目標と戦略が具体化している。戦略別重点事業は、それぞれの細かい実行計画を通じて具体化される予定であり、観光集客都市仁川実現のための重要なツールとなる見込みだ。本稿では第4次仁川圏観光開発計画について考察することにより、観光集客都市実現のための仁川市観光政策の方向性を紹介した。

参考文献

- 1) 韓国法制処（2007）「観光振興法」
- 2) 文化観光部（2001）「第2次観光開発基本計画」
- 3) シム・ジンボム（2004）「週休二日制導入による仁川広域市観光政策対応方案」
- 4) アン・ジョンユン（2000）「観光政策論：公共政策と経営政策」ソウル博英社
- 5) イ・ヨンテク（2003）「観光政策論」ソウルイルシン社
- 6) 仁川広域市（2007）「第4次仁川圏観光開発計画」
- 7) 仁川広域市（2006）「2020仁川都市基本計画」
- 8) 仁川広域市（2002）「第3次仁川圏観光開発計画」